

「平成25年度 高齢社会フォーラム・イン東京」

プログラム説明

吉田成良 フォーラム企画運営委員会代表 高齢社会NGO協議会専務理事

それではプログラム説明をいたします。例年のことですが、わたしも思い返してみましたら、これで15回になります。はじめからこのフォーラムにお出ましいただいている方もお見受けいたします。その人から「今年もよろしく」といわれまして、「まだ元気にやっています」とごあいさつ申し上げた次第です。

お手元にあるプログラムをご覧ください。

「開催にあたって」というページにございますように、国連が1999年を「国際高齢者年」と定めまして、それを記念する活動を民間として担うべく「高齢社会NGO連携協議会」も立ち上がりました。それを待っていたかのように、内閣府、当時は総務庁でしたが、高齢社会対策室という大きな室がございまして30人ぐらいのスタッフがおられた、その室長さんからご相談があつて、いっしょにイベントをとということで始まったのが、このフォーラムのそもそものきっかけです。

最初の10年、2008年までは「高齢社会研究セミナー」といひまして、内閣府と高連協との共催で毎年、開いてまいりました。それが2009年から「高齢社会フォーラム」という名前になりまして、いまは東京と地方の大都市で2回、その年度内に開催するというような形になっております。ことしは10月3日に福島市で、内閣府、高連協そして福島市の3者共催で催します。きょうは福島市の幹部の方もこの席にお見えになっておられます。関心のお有りの方はぜひ福島へお越しくださいませ。

本日の「基調講演」は、両代表のうち、樋口代表がなさいます。堀田代表には麻田内閣府審議官のあと、長めの開催ごあいさつをお願いしてございます。よろしく願いいたします。樋口さんは「高齢社会をよくする女性の会」の理事長で、みなさんもお話はたくさん聞いておられると思いますが、今回のこのフォーラムの「シニアの社会参加で世代をつなぐ」というタイトルは樋口さんの造語で、造語の名人でございますから、これをいただいたものでございます。

そのあと、「内閣府高齢社会対策担当」の宮本参事官から、日本の高齢社会の状況とその対応についての「対策説明」をしていただきますので、みなさまは、プロジェクト・スクリーンとお手元にある「概要」をご覧くださいながらお聞きください。

午後は分科会です。1時半から4時半まで、三つの会場に分かれておこないます。

第1分科会は「明るく温かい地域社会づくりを目指して」で、シニア世代の参加で、どうすれば各世代にとっての明るく温かい地域社会づくりに貢献できるか。

第2分科会は「期待されるフレッシュ・シニア」で、新しい高齢者である「団塊の世

代」の人たちが去年からわれわれの仲間になってきました。この人たちがどう社会を支え、世代をつないでくれるのか、パネリストもその世代の方々を中心にしております。

第3分科会は「起業・就業、ボランティア活動～シニア活動実践家と語り合う～」で、去年はふたつになっていたものをまとめました。というのはシニアも戦中体験世代から団塊まで幅広くなってまいりましたし、考え方もそれぞれの人生も社会との関係で大きく違います。ですからこの分科会は、さまざまな分野で多様に展開されているシニアの活動を、実践者とともに語り合う場といたしました。

国際的にも橋本総理の時代にデンバーサミットで、「シニアの直接または間接的社会参加」という議論がありました。人間はだれもが最後まで社会の一員として何らかの役割を持ちたい。そういう幅と目的を持った考え方と実践を取り上げる場も、いずれはというより近く必要だと考えております。

資料の最後にアンケートがはいております。感想などを書いてお帰りいただければと存じます。

きょう一日よろしく願いいたします。